

## 日本一の広報紙と育つ、「まちのプロ」職員（愛媛県内子町）

### 取組概要

#### 【新規採用職員が広報紙を隅々まで読む広報モニター】

内子町では広報紙の制作に、10数年前から住民モニターアンケートを採用し、住民の意見や疑問を紙面に反映している。

平成28年度から、同様のアンケートを新規採用職員にも依頼。若い住民として、これからの町を担う職員としての意見をいただいている。広報紙のレベルアップを図るとともに、新規採用職員が住民や町政と関わる機会をつくり、職員の成長につなげる取り組みである。

人口 16,927人 (H30.1.1現在)

担当 総務課

### 取組の効果

#### 【費用0円で大きな効果】

各課長の協力で勤務時間内にアンケート回答をしている。新規採用職員からは「住民と話すときに平易な言葉を使うよう心掛けている」「傾聴の大切さを学んだ」などの感想があった。また最初は自分の仕事で精一杯になりがちだが、「〇〇課の職員ではなく、町の職員という意識が高まった」という職員もおり、「まちのプロ」という意識の醸成に大きな効果があった。

#### 【『広報うちこ』が日本一に】

モニターや編集委員会をはじめ、多くの人の手によってつくられている広報紙が、平成30年全国広報コンクールで日本一となる内閣総理大臣賞を受賞した。住民の皆さんと職員が共に成長を続けていることが、紙面だけでなく、まちづくりにも生かされている。



町民モニターと新規採用職員によるモニター会議の様子

### 創意・工夫した点

#### 【紙の上での意見交換】

新採用職員にとっては、自分の意見を明確にした上で他人の考えを知ることができるが、対話ではないので冷静に自分自身の仕事を顧みるきっかけになっているようである。自由形式の回答欄もあるので、以前のアンケート回答についてのやりとりなどもある。間接的ではあるが、住民と新規採用職員が意見を交わす場になっている。

### 他団体へのアドバイス

広報紙が住民とまちをつなぐ1つのツールと考え、内容を充実させるとともに、「まちのプロ」になる職員を増やすための1つの機会として、広報紙を通じた職員育成やまちづくりを検討してみてもはいかがでしょうか。



内閣総理大臣賞を受賞した「広報うちこ」